



## 新年を迎えて

署長 鈴木 勝之



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族そろって穏やかに希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年度の岩手北部森林管理署における各事業につきましては、残念ながら軽度な災害の発生をみたところですが、比較的天候が順調であったことも手伝い、ほぼ予定どおりに進められており、関係者の皆様並びに職員の皆様のご努力、ご協力に心より感謝申し上げます。

また、今年度の当署の林産物収入については、カラマツや低質材の販売が好調に推移したことなどを要因に本年度の目標にも目途がたった状況にあり、関係者には合わせて感謝申し上げます。

昨年我が国では円安に伴う輸入材の価格上昇で国産材の需要が多少増えたことに加え、近年急速に伸びる木質バイオマス発電向けの燃料用チップの需要等により、一昨年の木材自給率が26年ぶりに30%台を回復したとのニュースが入ってきたことは皆様もご承知のとおりですが、政府が掲げる2020年までの自給率50%の目標を更に現実のものとするためには、直交集成板(CLT)と呼ばれる高層木造建築用建材の需要拡大などの新たな需要の拡大や主伐期を迎えた我が国の森林資源から持続的・安定的に木材を供給する体制を構築していくことが欠くことのできない要件であるといわれています。

このため、国有林においては、需用者のニーズに的確に対応した木材の安定的な供給体制を維持するとともに、①コンテナ苗の活用拡大②下刈りの省力化③一括発注(一貫作業システム)等による林業の低コスト化・森林施業の省力化を進め、森林・林業の再生に着実に貢献していかなければなりません。

また一方で、昨年9月に起きた東日本豪雨災害、10月の爆弾低気圧による豪雨災害など局所的な豪雨が昨今多発しており、地域の皆様の安全・安心の確保のため、保安林を中心として森林の適正な管理にも努めていかなければなりません。

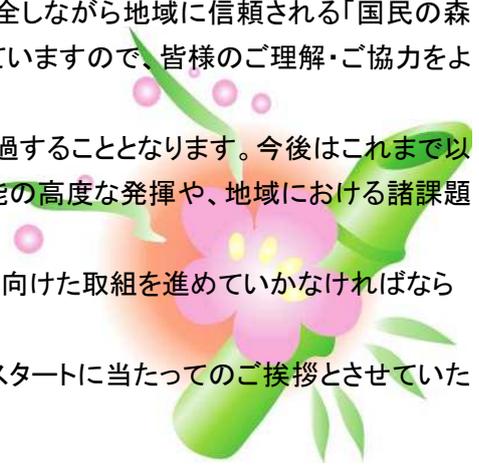
昨年当署では、森林・林業の再生にも資する森林整備を積極的に推進するとともに、「素材・立木販売意見交換会」の開催、「あっぱ高原遊々の森」のボランティアによるフィールド整備と意見交換会の開催、馬淵川上流域森林・林業活性化センターとの共催での「間伐推進現地検討会」の開催など、地域や関係者の方のご意見を踏まえながらいくつかの取組を行ってきました。

今年も、積極的に森林整備を進め、また、地域の貴重な自然を保全しながら地域に信頼される「国民の森林」となるべく、岩手北部森林管理署の仕事を進めて参りたいと考えていますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本年の4月には、国有林野事業が一般会計に移行して丸3年が経過することとなります。今後はこれまで以上に国民の財産である国有林の管理経営を充実させその多面的機能の高度な発揮や、地域における諸課題の解決に貢献していくことが重要となります。

そのためにも、職員一人一人が技術力を高め、森林・林業の再生に向けた取組を進めていかなければならないと考えています。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして新たな年のスタートに当たってのご挨拶とさせていただきます。



# 冬期における労働安全の確保について

次長 谷藤 忠志

今年は例年になく積雪の無い中で冬期事業がスタートしたところです。しかしながら職員の皆さんにおかれましては夏期とは違い、作業環境の違いや通勤、移動時の車両運転の際などには一層注意を払っておられることと思います。

岩手北部署におきましては夏期に災害が発生したことを反省し「冬期事業労働災害防止対策強化期間」を昨年の12月からこの1月いっぱいとし、様々な事項を実施しながら労働安全の確保に全力を尽くすこととしています。

その中でも今年度は通勤災害を含め車両運転時における追突事故が多く発生しています。また、今後は通勤や作業現地への移動の際には通行する路線について雪崩の危険や路面の凍結の恐れがでてきます。対策としまして、車両運転の際は冬の交通事故防止県民運動で提唱されております「冬道用タイヤ装着の徹底、飲酒運転の根絶、スピードダウンの徹底、反射材用品等の活用推進」を心がけて頂き、交通事故の防止に努めていただきたいと思います。また、各作業の実行につきましては、足場足元の確認を始めとし、基本動作の励行により労働災害の未然防止に留意していただきたいと思います。

一方、請負事業等の作業につきましては局管内で重大災害が発生し災害の発生が多発傾向にあり憂うべき事態となっています。これ以上、労働災害が発生しないよう現場巡視等の機会を捉えた安全指導を継続していただきますようお願いいたします。

これから寒冷期を迎えますます作業条件も厳しくなってきますが、各自が健康管理と作業前の一呼吸を励行していただき、無災害で冬期事業期間が終えられますよう職員が一緒になり健康安全活動を進捗して参りたいと考えておりますのでよろしく  
お願いします。



## 局長・局次長 巡閲



11月9日に瀬戸新局長、11月27日に大貫局次長による巡閲がそれぞれ行われました。

林業の成長産業化による地方創生、一貫作業システム等の施業の省力化への取組、当署の主たる人工林であるスギ、カラマツな



などの特徴を活かした森林経営、森林管理署が地域にあって良かったと思われるよう、職員一人一人が心がけて頑張してほしい旨の訓示をいただきました。

**注意  
喚起**



**路面凍結に注意!!**

**車間距離を空けて**

**安全運転を心がけましょう!!**



## 平成27年度 国有林野事業業務研究発表会へ参加しました

地域技術官(森林育成担当) 市原 良浩

12月10日に農林水産省(本省)で開催された国有林野事業業務研究発表会の森林保全部門で、私が三陸北部森林管理署勤務時に田野畑森林官の菊池さんと取り組んだ『迫りくるシカ被害に備えて』を発表しました。

本課題は東北森林管理局主催平成26年度森林・林業技術交流発表会の森林保全部門で優秀賞を受賞したもので、東北局を代表しての発表でした。皆さんご存じのように、近年、東北局管内で生息地が拡大し農林業や生態系に影響を与えているニホンジカですが、その対策は個体数や被害が拡大してから実施されがちで、対策に苦慮することが多いのが現状です。この発表は、自身がわな猟でシカを捕獲した経験を踏まえながら、被害最前線に隣接する田野畑村にて今後拡大すると予想されるシカ被害の対策を事前に検討し被害拡大に備えるという、これまでにあまり行われていない内容で注目を集めました。

当日の発表では、惜しくも賞を受賞することはできませんでしたが、審査委員から、「課題に関するアンテナの感度が高く、自発的に地域と一体となった取り組みをされており非常に頼もしい発表だった。」と好評をいただきました。

岩手北部署管内では、まだシカの目撃報告、被害は少ないですが、今後に備えてモニタリング体制の充実、地域と連携した取組を実施する等、対策を講じていければと思います。



発表する菊池さん

## 間伐推進現地検討会



平成27年8月5日(水)に二戸市の稲庭嶽国有林において、馬淵川上流流域森林・林業活性化センターとの共催による間伐推進現地検討会開催しました。

当日は、関係者46名が参加し、はじめに署担当者から現地の事業内容を説明した後、森林作業道の配置と伐採列の入れ方、森林作業道作設の留意点及び採材についての現地検討、意見交換を行いました。

## 安比環境保全活動



平成27年10月25・26日に「あっぴ高原遊々の森」において、安比高原ふるさと倶楽部及び八幡平市との共催による環境保全整備事業を行いました。具体的には、2日間で約100名のボランティアが集まり、芝草原景観維持のための灌木・ササ等の刈払い・焼却作業を2日間にわたり行いました。26日には馬の放牧等による管理タイプ別の草原の植生調査結果が報告され、今後、この貴重な財産である自然環境を次世代につなげていくにはどのような維持管理が必要か検討することとしました。また、25・26日のボランティア交流会では地元演奏者によるピアノ演奏会も行われなごやかな交流会となりました。



# 森林教室

5月から始まった森林教室が9月で終了しました。今年度も楽しい交流がたくさんありました。

## 八幡平市立 安代小学校 (5年生)



◎『木材の伐採から利用まで』という学習テーマで各事業所の方々にご協力いただき、製品生産現場・製材所で製品になるまでの過程を学習しました。(8月24日 上坊山国有林ほか)



◎ウォッチングビンゴゲームをしながら動植物の観察、模型を使った治山ダムの実験学習を行いました。

(9月28日 あっぴ高原遊々の森)

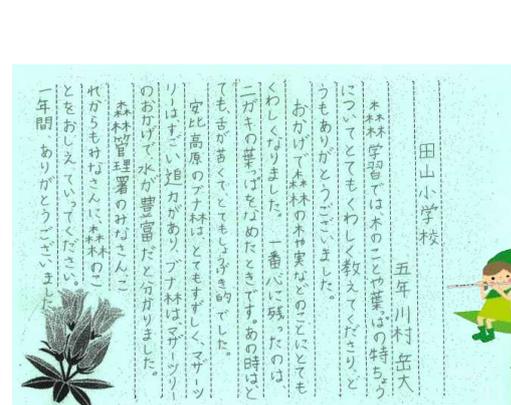
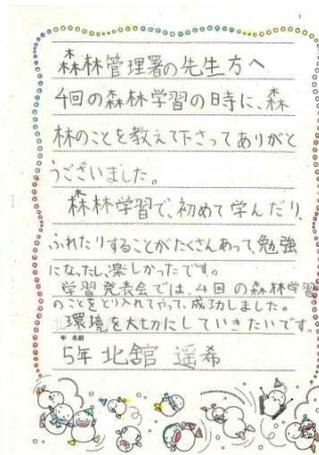
## 八幡平市立 田山小学校 (5年生)



◎ウォッチングビンゴゲームをしながら動植物の観察、二酸化炭素吸収実験学習を行いました。

(8月20日 あっぴ高原遊々の森)

## 安代小学校・田山小学校の児童から、お礼状をいただきました



## 八幡平市立 大更小学校 (3年生)



◎『総合学習～八幡平市の良さを伝えよう～』の取組に基づき、ブナ林周辺を散策しながら豊かな自然が身近なところにあることを学習しました。(9月24日 あっぴ高原遊々の森)

## 八幡平市立 松野小学校 (1・2年生)



◎森林の大切さや動物・昆虫などの写真を見ながら生態系の学習をしました。(8月28日 松野小学校)



## 二戸市立浄法寺小学校(3年生)



◎自然の美しさ・豊かさを感じながら植物観察をしたり、ネイチャーゲームでは、グループで相談しながら答えが解り嬉しそうに解答用紙に記入しながら盛り上がりました。(9月1日 稲庭岳)

### 平成28・29年度『国有林モニター』の募集

東北森林管理局は、国有林の管理・経営に皆さまの声を役立てていくため、モニターを募集しています。

募集人員 ◎48名程度

募集期間 ◎平成27年12月16日(水)～平成28年1月29日(金)

〔当日消印有効〕

任 期 ◎2年間(平成28年4月～平成30年3月)

内 容 ◎アンケートへの回答

現地見学会・国有林モニター会議への出席など

応募資格、応募方法など、詳しくは局 HP(下記参照)をご覧ください、もしくはお問い合わせください。

**問い合わせ先** 東北森林管理局 企画調整課 林政推進係

TEL:018(836)2228 FAX:018(836)2031

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

# 奥羽山脈の回廊における野生動物のモニタリング

地域技術官(森林育成担当) 市原 良浩

当署では、奥羽山脈緑の回廊における野生動物の生息状況をモニタリングするために、森林総合研究所と共同で平成12年より安比高原付近の安比岳国有林内のブナ林にてビデオカメラとセンサーカメラによるモニタリングを行っています。  
今回はその取組について紹介します。

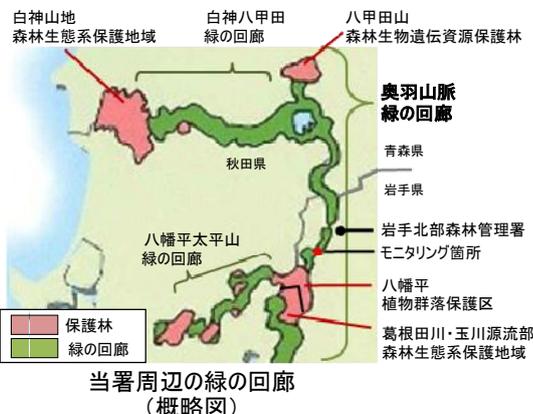


ビデオカメラで常時ビデオ撮影を行う

## 緑の回廊って？

保護林など貴重な森林同士を連結して連続した自然林を回復することで、野生動植物のつながりを確保し、生物多様性を保全することを目的に設定された森林。

八甲田から蔵王をつなぐ奥羽山脈緑の回廊は全国に先駆けて平成12年に設定されています。



センサーカメラは動くものに反応して撮影

## モニタリングのあれこれ

モニタリング箇所は冬期間には2mほどの積雪がありアクセスが厳しくなるため、融雪後(6月)～積雪前(11月)の期間でビデオカメラとセンサーカメラ各2台でモニタリングを行っています。ビデオカメラの映像はケーブルを介してモニタリング小屋のビデオデッキに記録され、定期的にデータの回収を行っています。

積雪期(2月)には、積雪から小屋を守るため市道を片道約6km歩き、1日かかりで小屋の除雪を行うのが岩北署の恒例行事です。



モニタリング小屋の夏と冬

## 安比周辺の動物たち

平成24年から平成26年の3ヶ年の記録より、出現回数が多かったのは次の5種類です！

第一位



キジバト(87回)  
納得の第一位 よく林道にいます

第二位



ツキノワグマ(39回)  
緑の回廊の指標種

第三位



ニホンカモシカ(19回)

第四位



コウモリ類(16回)

第五位



タヌキ(15回)

この他にもテン、ノウサギ、アナグマ、キツネなど東北の山地でよく見られる動物が出現しており、緑の回廊としての役割を果たしていることが確認できます。

その一方、北へ生息地を拡大しつつあるニホンジカを平成23年に、イノシらしき動物を平成25年に記録しており、緑の回廊が生物の分布拡大にも影響していることが伺えます。

この取組は緑の回廊設定時から16年という長期にわたり行われており、貴重なデータを蓄積し続けております。その間に新たにニホンジカが出現するなど、少しずつですが奥羽山脈緑の回廊をとりまく環境が変わりつつあることが確認できました。当署では引き続きモニタリングを継続することで、緑の回廊の効果の検証や、ニホンジカなど分布が拡大している野生動物の監視を行っていきます。